

北上川上流国有林の地域別の森林計画書（案）

（一斉変更）

（北上川上流森林計画区）

計画期間	自	平成23年4月1日
	至	平成33年3月31日

東北森林管理局

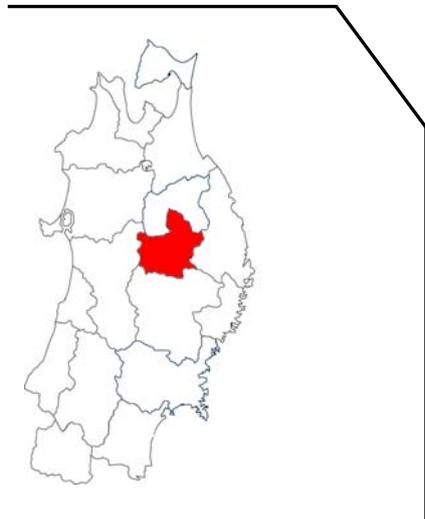
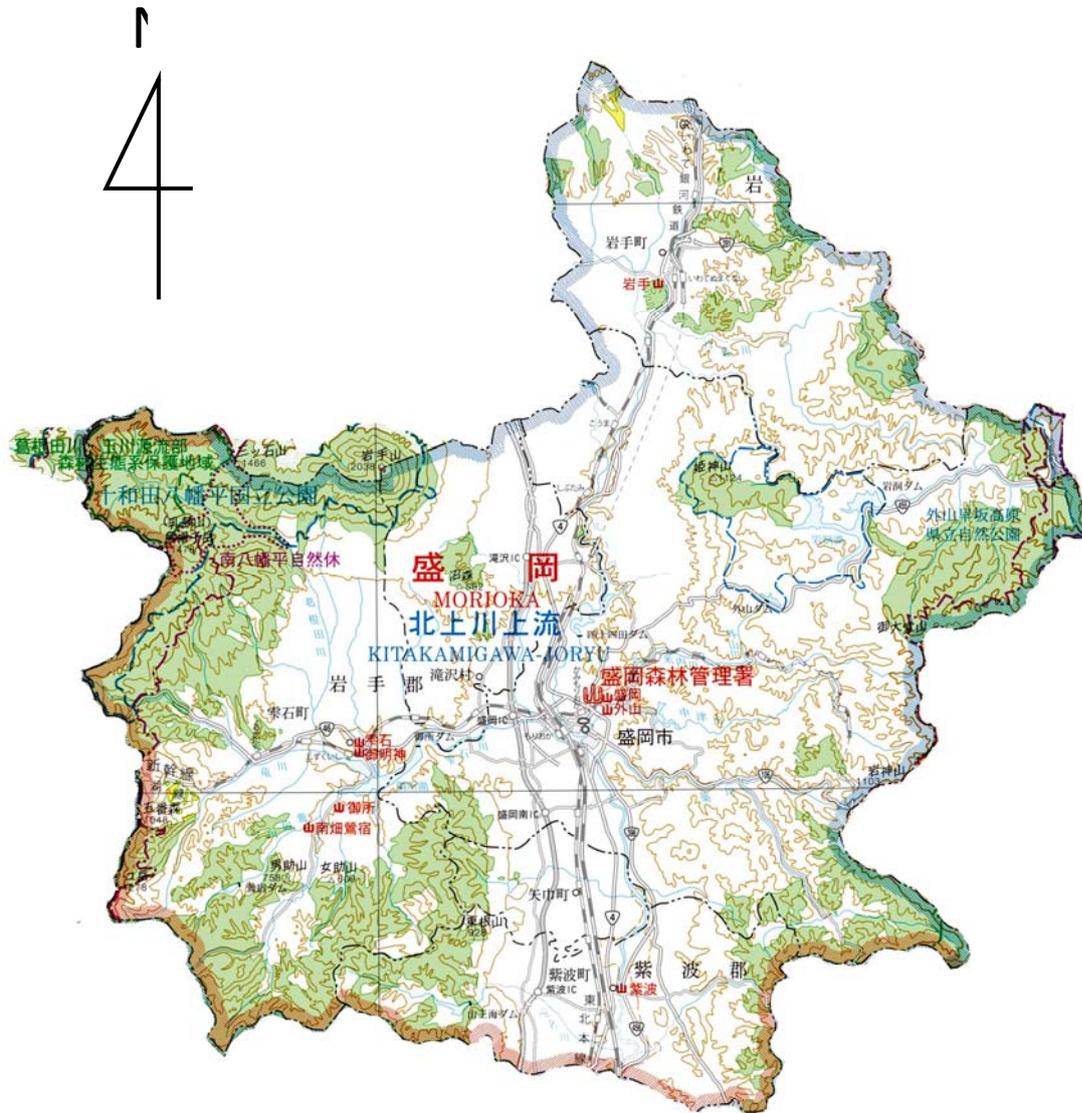
北上川上流国有林の地域別の森林計画の変更理由

森林法（昭和26年法律第249号）の一部改正（平成23年4月22日公布）に伴い、同法附則第4条第1項に規定する現行の北上川上流国有林の地域別の森林計画（平成22年度樹立）を変更する。

（参考）森林法附則第4条第1項

森林管理局長は、平成23年12月31日までに、新法第7条の2の規定の例により、附則第1条第1号に掲げる規定の施行の際現に旧法第7条の2の規定によりたてられている森林計画（平成19年4月1日とその計画期間の始期とするものを除く。）を変更しなければならない。この場合において、当該森林計画の変更は、平成24年4月1日にその効力を生ずるものとする。

北上川上流森林計画区の位置図



1:400,000



	国有林野
	官行造林地

目 次

I	計 画 の 大 綱	
1	森林計画区の概況	1
(1)	位 置	1
(2)	自然的背景	1
(3)	社会経済的背景	2
2	計画樹立に当たっての基本的考え方	3
II	計 画 事 項	
第 1	計画の対象とする森林の区域	4
第 2	森林の整備及び保全に関する基本的な事項	5
	森林の整備及び保全の目標	
	その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項	5
(1)	森林の整備及び保全の目標	5
(2)	森林の整備及び保全の基本方針	6
(3)	計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等	9
第 3	森林の整備に関する事項	10
1	森林の立木竹の伐採に関する事項	10
(1)	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	10
(2)	立木の標準伐期齢	11
(3)	その他必要な事項	11
2	造林に関する事項	11
(1)	人工造林に関する基本的事項	11
(2)	天然更新に関する基本的事項	12
(3)	その他必要な事項	13
3	間伐及び保育に関する事項	13
(1)	間伐の標準的な方法	13
(2)	保育の標準的な方法	13
(3)	その他必要な事項	14
4	公益的機能別施業森林等の整備に関する事項	14
(1)	公益的機能別施業森林の区域及当該区域内における施業の方法	14

5	林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項	16
(1)	林道（林道専用道を含む。以下同じ）等の 開設及び改良に関する基本的な考え方	16
(2)	効率的な森林施業を推進するための 路網密度の水準及び作業システムの基本的考え方	16
(3)	更新を確保するための林産物の搬出方法を 特定する森林の所在及びその方法	16
(4)	その他必要な事項	16
6	森林施業の合理化に関する事項	17
(1)	林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	17
(2)	作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	17
(3)	林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	17
第4	森林の保全に関する事項	18
1	森林の土地の保全に関する事項	18
(1)	土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	18
(2)	樹根及び表土の保全その他森林の土地の 保全に特に留意すべき森林の地区	18
(3)	森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を 特定する必要がある森林及びその搬出方法	18
2	保安施設に関する事項	18
(1)	保安林の整備に関する事項	18
(2)	保安施設地区に関する事項	19
(3)	治山事業に関する事項	19
(4)	その他必要な事項	19
3	森林の保護等に関する事項	19
(1)	森林病虫害等の被害対策の方針	19
(2)	鳥獣による森林被害対策の方針	19
(3)	林野火災の予防の方針	19
(4)	その他必要な事項	19
第5	計画量等	20
1	伐採立木材積	20
2	間伐面積	20
3	人工造林及び天然更新別の造林面積	20
4	林道の開設又は拡張に関する計画	21

5	保安林整備及び治山事業に関する計画 -----	22
(1)	保安林として管理すべき森林の種類別面積等 -----	22
(2)	保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等 --	23
(3)	実施すべき治山事業の数量 -----	23
第6	その他必要な事項 -----	24
	保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法 ---	24
	別表 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法 -----	31
(附)	参考資料	
1	森林計画区の概況 -----	34
(1)	市町村別土地面積及び森林面積	
(2)	地況（気候）	
(3)	土地利用の現況	
(4)	産業別生産額	
(5)	産業別就業者数	
2	森林の現況 -----	36
(1)	齢級別森林資源表	
(2)	制限林普通林別森林資源表	
(3)	市町村別森林資源表	
(4)	制限林の種類別面積	
(5)	樹種別材積表	
(6)	荒廃地の面積	
(7)	森林の被害	
3	林業の動向 -----	47
(1)	森林組合及び生産森林組合の現況	
(2)	林業事業者等の現況	
(3)	林業労働力の概況	
(4)	林業機械化の概況	
4	前期計画の実行状況 -----	50
(1)	伐採立木材積	
(2)	人工造林・天然更新別面積	
(3)	林道の開設又は拡張の数量	
(4)	保安施設の数量	

5	林地の異動状況（森林計画の対象森林）	51
	(1) 森林より森林以外への異動	
	(2) 森林以外より森林への異動	
6	森林資源の推移	51
	(1) 分期別伐採立木材積等	
	(2) 分期別期首別資源表	
7	その他	53
	(1) 国有林の地域別の森林計画の沿革	
	(2) 担当者の役職及び氏名並びに樹立に従事した期間	

I 計画の大綱

1 森林計画区の概況

(1) 位置

本森林計画区は、岩手県のほぼ中央部に位置し、北側は馬淵川上流森林計画区、東側は久慈・閉伊川森林計画区、西側は雄物川森林計画区、南側は北上川中流森林計画区に接し、盛岡市など1市4町1村を包括する区域である。

(2) 自然的背景

ア 地勢

本森林計画区は、西に奥羽山脈、東に北上高地が相対して南北に走っている。この間を北上川が流れ、これを境にして奥羽山脈地域、北上高地地域に区分することができる。

奥羽山脈は、第三期のしゅう曲山脈で、秋田県境沿いに、南から駒ヶ岳(1,637m)、乳頭山(1,478m)、八幡平(1,614m)などの山地群が日本海側と太平洋側に画する脊梁となっている。

八幡平のやや南方から三ッ石山(1,466m)、岩手山(2,038m)などの岩手火山群が盛岡市の北西まで張り出し、岩手山の山麓には広い裾野が展開する。

また、北上山地は一般に起伏が少なく、毛無森(1,427m)など1,000m以上の山々が平坦な山頂を連ね、隆起準平原の地形を呈している。

主要な河川は奥羽山脈地域では雫石川、北上高地地域では南から米打川、丹藤川が流れて北上川に注いでいる。

イ 地質及び土壌

本森林計画区の地質は、北上山地地域には、古生代や中生代の堆積岩(砂岩・粘板岩・石灰岩等)および花崗岩が、奥羽山脈地域には、安山岩質岩が、それぞれ分布している。

土壌は、北上山地の丘陵地帯には黒色土が、奥羽山脈地域では褐色森林土が、それぞれ多い。また、標高の高い地帯にはポドゾル土壌が分布し、特に葛根田川上流、松川、北の又流域などに分布している。

ウ 気候

当計画区は、内陸性で寒暖の差が激しく、北上山地の外山高原から岩手郡界沿いに及ぶ地域は標高が高いこともあって、岩手県内では最も寒冷な地域である。

降水量は東部の北上山地と中央部ではやや少なく、奥羽山脈は多い。

秋田県境沿いは、降雪量も多く日本海型気候を呈している。

エ 林 況

(ア) 人工林

人工林は、立木地面積57千haの44%の25千haを占めており、このうち、スギが33%、カラマツが42%、アカマツが23%となっている。なお、人工林の齢級構成比率は、9 齢級が人工林全体の20%と最も高く、続いて8 齢級の18%となっており、6～10 齢級に偏った齢級配置となっている。

(イ) 天然林

天然林は、立木地面積の56%の32千haを占め、ブナを主とする広葉樹が大半を占めている。

(3) 社会経済的背景

ア 土地利用の現況

本森林計画区の総面積は234千haで岩手県の総面積の15%を占めている。土地の利用状況は、森林が164千haで本森林計画区の70%を占め、耕地が14%（田8%）となっている。

イ 地域産業の概要

本森林計画区の産業別の就労人口についてみると、産業別の割合は、第1次産業が8%、第2次産業が17%、第3次産業が75%となっている。

また、純生産額は約1兆1千5百億円で、産業別の割合は第1次産業が2%、第2次産業が15%、第3次産業が83%となっている。

なお、第1次産業に占める林業の割合は、産業別人口で2%、純生産額では4%となっている。

ウ 計画区における国有林の位置付け

本森林計画区の総森林面積164千haのうち国有林面積は38%に当たる62千haを占めている。

国有林は、国有林の所在する地域において分収造林、共用林野等とし地元利用されているとともに、製材、薪炭材の原木等を供給し、地域住民の生活向上及び関連産業の振興に寄与している。

このほか、当計画区は十和田八幡平国立公園をはじめとする森林景観の勝れた地域や、森林レクリエーションの適地も多く、国民の憩いの場として広く活用されている地域である。

2 計画樹立に当たっての基本的考え方

森林は、木材等の林産物の供給、水源かん養、山地災害の防止等の機能の発揮を通じて国民生活と深く結びついてきたところであるが、近年、これらに加えて、保健・文化・教育的な利用の場の提供、良好な生活環境の保全等の機能の発揮や地球規模での環境問題への関心の高まりを背景にした地球温暖化の防止や、生物多様性の保全への寄与等森林の持つ多面的機能への期待が高まってきており、国民の要請は高度化・多様化してきている。

一方、森林資源の状況を見ると、天然林については資源内容が必ずしも十分なものとはなっていない。また、人工林については、その多くが未だ間伐等の施業が必要な育成段階にある一方で、高齢級の森林が増加しつつある。このように森林資源は量的には充実しつつあり、適切な間伐等の推進による整備・保全と国産材の利用拡大を通じた林業の再生を図っていく重要な時期を迎えている。

このような状況の下で、公益的機能の発揮を図りつつ木材資源の効率的な循環・利用に対応するため、従来から進めてきた若齢の人工林の間伐に加え、高齢級の人工林についても、路網と高性能機械を組み合わせた効率的な作業システムの構築・普及に取り組むことによってコストを抑えた間伐を適切に行いながら、立地条件や国民のニーズに応じて長伐期化や育成複層林への誘導を計画的に実施するとともに、天然林については的確な保全・管理など森林を健全な状態に育成し、循環させるという質的充実を図る必要がある。また、保安林制度の適切な運用、山地災害等の防止対策などにより森林の保全の確保を図ることを機軸としつつ、森林の有する多面的な機能のうち、重視すべき機能に応じた森林資源の整備及び保全の推進を図ることが必要である。なお、このとき、全ての森林には多種多様な動植物や土壌生物が生息・生育していることから、それらを含む生態系の保全に配慮した施業を行うことが重要であり、そのような施業を通じて多様な林齢の森林を造成すること等が生物多様性の保全につながることに十分配慮する必要がある。また、森林は二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫として重要な役割を果たしており、間伐等の森林整備の着実な実施や適切な管理・保全等について、関係機関等の連携のもと、一層の推進を図る必要がある。

さらに、森林浴の場、森林の癒しの効果を活用した健康づくりの場、森林環境教育の場、野生鳥獣との共存の場、ボランティアなどが森林づくりに参加する場等として森林空間を様々な利用する森林の総合利用に対応するとともに景観の保全等の国民のニーズを踏まえた多様な森林資源の整備及び保全を推進する必要がある。

さらに、これらの森林の整備及び保全の展開基盤として、路網の整備の推進等に取り組むことが必要である。

この計画においては、上記のような基本的考え方に沿って、森林の整備及び保全の目標、森林施業、林道等の開設、森林の保全、治山施設等に関する事項を明らかにするものである。

なお、計画策定に当たっては、当流域における多様な森林の整備及び保全に資するため、民有林・国有林間での緊密な連携調整を図りつつ策定するものである。

Ⅱ 計 画 事 項

第 1 計画の対象とする森林の区域

計画の対象とする森林の区域は、次に掲げる市町村に所在する国有林野及び官行造林地の区域である。

市 町 村 別 面 積

単位 面積：ha

市 町 村	面 積	備 考
総 数	61,864.82	
盛 岡 市	16,755.25	
雫 石 町	31,840.27	
岩 手 町	5,396.80	
滝 沢 村	1,796.81	
紫 波 町	5,077.85	
矢 巾 町	997.84	

注 森林計画図の縦覧場所は、東北森林管理局、東北森林管理局青森事務所及び盛岡森林管理署とする。

第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

森林の整備及び保全にあたっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ、適切な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進することとする。

具体的には、森林の有する水源涵養、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化及び生物多様性保全の各機能を高度に発揮するための適切な森林施業の実施、林道等の路網の整備、保安林制度の適切な運用、山地災害の防止、森林病虫害や野生鳥獣害の被害対策などの森林の保護等に関する取組を推進することとする。

そのため、本森林計画区の自然的、社会経済的な特質、森林の有する公益的機能の高度発揮に対する要請、森林の構成、本森林計画区における国有林の位置付け等を踏まえ、以下に掲げる森林の整備及び保全の目標及び基本方針において、森林の有する多面的機能を発揮する上での望ましい姿、機能発揮に向けた誘導の考え方、目標とする森林の状態を明らかにする。

(1) 森林の整備及び保全の目標

当計画区内の森林の自然的・社会的・経済的諸条件からみて、森林の有する水源かん養、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化及び生物多様性保全の各機能について、特にその機能を高度に発揮させる必要のある森林の機能発揮の上から望ましい森林資源の姿は次のとおりである。

ア 水源かん養機能

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄えるすき間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壤を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林

イ 山地災害防止機能/土壤保全機能

下層植生が生育するための空間が確保され適度な光が射し込み、下層植生とともに、樹木の根が深く広く発達し土壤を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林

ウ 快適環境形成機能

大気の浄化、騒音や風を防ぐなど良好な生活環境を保全するために、樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮へい能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林及び汚染物質の吸着能力が高く、かつ、抵抗性があり、葉量の多い樹種によって構成されている森林

エ 保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林

オ 文化機能

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林

カ 生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生息・生息する溪畔林

キ 木材等生産機能

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林

(2) 森林の整備及び保全の基本方針

ア 期待する機能ごとの森林整備及び保全の基本方針

(水源涵養機能)

ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林並びに地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、伐採に伴って発生する裸地については、縮小及び分散を図ることとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。

ダム等の利水施設上流部等においては、水源かん養の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進することを基本とする。

(山地災害防止機能／土壤保全機能)

山腹崩壊等により人命・人家等施設に被害を及ぼすおそれがある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊の防備その他山地災害の防備を図る必要のある森林は、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進することとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。

集落等に近接する山地災害の発生の高危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十分に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の浸食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設の設置を推進することを基本とする。

(快適環境形成機能)

国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効

果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進することとする。

快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進することとする。

(保健・レクリエーション機能)

観光的に魅力ある高原、溪谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、国民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進することとする。

また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

(文化機能)

史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとする。

また、風致のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

(生物多様性保全機能)

全ての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与している。このことを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方に基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指すものとする。

とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全することとする。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮した適切な保全を推進することとする。

(木材等生産機能)

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備を推進することとする。

具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保

育及び間伐等を推進することを基本とする。この場合、施業の集団化や機械化を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。

イ 森林の誘導の考え方

① 育成単層林・育成複層林・天然生林の区分

期待する機能の発揮に向けた森林の誘導については、育成のための人為^{※1}の程度、単層・複層という森林の階層構造に着目し、以下の育成単層林・育成複層林・天然生林ごとに示すこととする。

a 育成単層林

森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持する森林。

b 育成複層林

森林を構成する林木を択伐^{※2}等により伐採し、複数の樹冠層^{※3}を構成する森林として人為により成立させ維持する森林。

c 天然生林

主として天然力^{※4}を活用することにより成立させ維持する森林^{※5}。

※1 「人為」とは、目的に応じ、植栽、更新補助（天然下種更新のための地表かきおこし・刈払い等）、芽かき、下刈り、除伐等の保育及び間伐等の作業を行うこと。

※2 「択伐」とは、森林内の成熟木を数年～数十年ごとに計画的に繰り返し伐採（抜き伐り）すること。

※3 「複数の樹冠層」とは、樹齢や樹種の違いから林木の高さが異なることにより生じるもの。

※4 「天然力」とは、自然に散布された種子が発芽・生育することをいう。

※5 「天然生林」には、未立木地、竹林等を含む。

② 森林の区分に応じた誘導の考え方

森林資源の充実と公益的機能の発揮を図りながら循環的に森林を利用していくため、以下の誘導の考え方に基づき森林の整備及び保全を進め、望ましい森林の姿を目指すこととする。

その際、全ての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方に基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されることが望ましい。

a 育成単層林

現況が育成単層林となっている森林のうち、成長量が比較的高く傾斜が緩やかな場所

に位置するものについては、木材等生産機能の発揮を期待する育成単層林として確実に維持し、資源の充実を図る。この場合、長伐期や短伐期など多様な伐期により確実な更新を図ることとし、水源涵養機能又は山地災害防止機能／土壤保全機能の発揮を同時に期待する森林では、伐採に伴う裸地化による影響を軽減するため、皆伐面積の縮小・分散や伐期の長期化を図る。

また、急傾斜の森林又は成長量の低い森林については、育成複層林に誘導する。この場合、公益的機能の発揮のため継続的な育成管理を実施することとし、立地条件に応じて広葉樹の導入等により針広混交の育成複層林に誘導する。

なお、上記の考え方によらず、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能及び文化機能の発揮を期待する森林では、景観の創出等の観点から、間伐等の繰返しにより長期にわたって育成単層林を維持するか、又は立地条件に応じ広葉樹の導入等により針広混交の育成複層林に誘導する。また、希少な生物が生育・生息する森林など属地的に生物多様性保全機能の発揮が求められる森林においては、天然力を活用した更新を促し、針広混交の育成複層林又は天然生林に誘導する。

b 育成複層林

現況が育成複層林となっている森林については、公益的機能の発揮のため引き続き育成複層林として維持することを基本とする。ただし、希少な生物が生育・生息する森林など属地的に生物多様性保全機能の発揮が求められる森林においては、必要に応じて、天然力の活用により、天然生林への誘導を図る。

c 天然生林

現況が天然生林となっている森林のうち、下層植生等の状況から公益的機能発揮のために継続的な維持・管理が必要な森林や、針葉樹単層林に介在するなど継続的な資源利用が見込まれる森林については、更新補助作業等により育成複層林に誘導する。

その他の森林は、天然生林として維持する。特に、原生的な森林生態系や希少な生物が生育・生息する森林等については、自然の推移に委ねることを基本とする。

(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等について、次のとおり定める。

単位 面積：ha

区 分		現 況	計画期末
面 積	育 成 単 層 林	24,763	24,720
	育 成 複 層 林	1,776	1,802
	天 然 生 林	30,393	30,226
森林蓄積 m ³ /ha		156	159

第3 森林の整備に関する事項

森林施業を実施するに当たっては、第2の1に定める森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的事項によるほか、次に掲げる基準によるものとする。

なお、保安林及び保安施設地区内の森林並びに森林法施行規則（昭和26年農林省令第54号）第7条の2に規定されている森林については、保全対象又は受益対象を同じくする森林ごとに制限の目的の達成に必要な施業を行うこととする。

また、森林の生物多様性の保全の観点から、施業の実施に当たっては、野生生物の営巣、餌場、隠れ場として重要な空洞木や枯損木、目的樹種以外の樹種であっても目的樹種の成長を妨げないものについては、保残に努めることとする。

1 森林の立木竹の伐採に関する事項

(1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

森林施業を実施するに当たっては、第2で定める森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的事項によるほか、次に掲げる基準によるものとする。

(ア) 育成単層林施業を行う森林

育成単層林施業にあつては、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、人工造林又はぼう芽更新により高い林地生産力が期待される森林及び森林の有する公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

- a 主伐に当たっては、自然的条件及び公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、1箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採箇所の分散に配慮することとする。また、林地保全、雪崩、落石等の防止、寒風害等の各種被害の防止及び風致の維持等のため必要がある場合には、所要の保護樹帯を設置することとする。
- b 主伐の時期については、高齢級の人工林が増加すること等を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮しつつ、多様化及び長期化を図ることとする。

(イ) 育成複層林施業を行う森林

育成複層林施業にあつては、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、人為と天然力の適切な組み合わせにより複数の樹冠層を構成する森林として成立し、森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

なお、主伐に当たっては、複層状態の森林に確実に誘導する観点から、自然的条件を踏まえ、森林を構成している樹種、林分構造等を勘案して行うこととする。また、立地条件、下層木の生育条件等を踏まえ、帯状又は群状の伐採等の効率的な施業の実施についても考慮することとする。

- a 択伐による場合は、森林生産力の増進が図られる適正な林分構造に誘導するよう適切な伐採率及び繰り返し期間によること。
- b 漸伐又は皆伐による場合は、適切な伐採区域の形状、伐採面積の規模、伐採箇所の分散等に配慮すること。

- c 天然更新を前提とする場合には、種子の結実状況、天然稚樹の生育状況、母樹の保存等に配慮すること。
- (ウ) 天然生林施業を行う森林
 - 天然生林施業にあつては、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することによりの確な更新及び森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。
 - a 主伐については、(イ)の主伐に当たっての留意事項によること。
 - b 国土の保全、自然環境の保全、種の保存等のために禁伐その他の施業を行う必要のある森林については、その目的に応じて適切な施業を行うこと。
- (エ) その他
 - 保安林及び保安施設地区内の森林並びに森林法施行規則（昭和26年農林省令第54号）第7条の2に規定されている森林については、保全対象又は受益対象を同じくする森林ごとに制限の目的の達成に必要な施業を行うとともに、森林生産力の維持増進が図られる施業方法によることとする。

(2) 立木の標準伐期齢

標準伐期齢は、樹種ごとに平均成長量が最大となる年齢を基準として、次のとおり定める。

地 区	樹 種				
	針 葉 樹				広葉樹
	ス ギ	アカマツ	カラマツ	その他 針葉樹	
全 域	4 5	4 0	3 5	4 5	2 5

- (3) その他必要な事項
該当なし

2 造林に関する事項

(1) 人工造林に関する基本的事項

ア 人工造林の対象樹種

人工造林における造林すべき樹種は、適地適木を原則とし、土壌、地形等の自然条件を的確に把握した上で、既往の造林実績及び林産物の需要動向等を勘案して、現地の状況に最も適合した樹種を選定することとする。

イ 人工造林の標準的な方法

a 地 拵

林地の保護及び地力の維持を図りつつ確実な更新を行うため、末木枝条の存置状況、植生、地形等に応じた効率的な作業方法を採用することとする。

アカマツ等の有用天然木の稚幼樹が群状に生育している場合は、これを育成していくこととする。

b 植付

健全な苗木を用い、適期、適作業により活着率の向上と植栽当年からの旺盛な成長を期待する。

植付時期は春植えを原則とする。

植栽本数は、下表を目安とし、立地条件及び有用天然木の稚幼樹の成立状況等に応じて調整する。なお、複層林施業については、下表の植栽本数に複層伐の伐採率を乗じて得られる本数を目安とする。ただし、保安林で植栽指定のある場合は、その指定本数以上とする。

単位：本/ha

樹種	植栽本数
スギ	2,500 ～ 3,000
カラマツ	2,000 ～ 2,500

ウ 伐採跡地の人工造林をすべき期間

公益的機能の維持、早期回復を図るため、人工造林によるものについては、原則として2年以内とする。

(2) 天然更新に関する基本的事項

ア 天然更新の対象樹種

天然更新補助作業の対象樹種は、アカマツ、ブナ等の有用天然木とする。

イ 天然更新の標準的な方法

更新を確保し、成林させるため、地表処理、刈出し、植込み等の更新補助作業を実施することが必要かつ適当な森林については、それぞれの森林の状況に応じた方法により、施業を行うこととする。

また、期間を定めて更新状況を確認し、更新が完了していないと判断される場合は、植栽等により更新を図ることとする。

a 地表処理

ササや粗腐植の堆積等により天然下種更新が阻害されている箇所についてかき起こし、枝条整理等の作業を行うこととする。

b 刈出し

ササなどの下層植生により天然稚樹の生育が阻害されている箇所について行うこととする。

c 植込み

天然稚樹等の生育状況等を勘察し、天然下種更新の不十分な箇所に必要な本数を植栽することとする。

- (3) その他必要な事項
該当なし

3 間伐立木材積その他間伐及び保育に関する基本事項

(1) 間伐の標準的な方法

(ア) 間伐の時期

間伐は、林冠が閉鎖して林木相互間の競争による優劣が生じた時期から行うものとするが、その目安は上層木樹高がおおむね9 m、かつ、収量比数がスギ0.60以上、アカマツ0.70以上、カラマツ0.65以上とする。

(イ) 間伐の繰り返し期間

林冠が再び閉鎖する期間と間伐効果が成長に及ぼす期間を考慮して決定することとし、おおむね10年（ただし、カラマツにあつては8年）を目安とする。

(ウ) 最終間伐の時期

主伐予定時期のおおむね10年前（ただし、カラマツにあつては8年前）を目安とする。

(エ) 間伐率

材積間伐率は、35%を超えないものとする。

ただし、法令等により間伐率の限度が定められている林分については、その限度内とする。

(2) 保育の標準的な方法

林木の保育は、樹種の特長、林分の状況、実行時期等を十分考慮し、常に実態を把握し、健全な林分の育成を図ることを目的に以下のとおりとする。

(ア) 作業時期、回数

樹種	作業別	保育作業計画 (年)														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
スギ	下刈	△	○	○	○	○	△									
	つる切・除伐							←	○	→		←	○	→		
アカマツ クロマツ	下刈	人工林	○	○	○	○	△									
		天然林	◎	◎	○	○	○									
	つる切・除伐							←	○	→		←	○	→		
カラマツ	下刈	○	○	○	△											
	つる切・除伐						←	○	→		←	○	→			

注 ◎は2回刈り、△は必要に応じて実施することを示す。その他明示されていない保育については、現地の状況に即し、必要に応じて行う。

(イ) 施業方法の基準

a 下刈

植栽木、有用天然木の生育状況及び植生の状況等現地の実態により適切な作業方法を採用し、効率的な作業を行う。

下刈の終期は、植栽木の高さが雑草木より抜き出て、植栽木の生育に支障がなくなった時期とする。

b つる切

つる類の繁茂状況により必要に応じ実施することとし、かん木類の発生状況を勘案して極力除伐作業と同時に実施する。

c 除伐

下刈の終了後、林分が閉鎖するまでの段階で、有用天然木の育成に配慮しつつ、目的樹種の生育を阻害している侵入木及び形質不良な造林木の除去を目的として実施する。

なお、豪雪地帯における急激な疎開は、雪害の危険があるので、植栽木と侵入木の相互の配置状況を考慮し漸進的に行う。

(3) その他必要な事項

該当なし

4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

(1) 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法

公益的機能別施業森林の区域及び施業方法については、別表のとおり定める。

ア 公益的機能別施業森林の区域

① 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

水源涵養の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせる。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施行地等についてはこの限りとししない。

② 土地に関する災害の防止及び、土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

(ア) 森林の有する土地に関する災害の防止及び、土壌の保全の機能の維持増進を図るため森林施業を推進すべき森林

山地災害防止機能・土壌保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域にかかる地域の要請等を勘案しつつ、管理経営一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。

ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施行地等についてはこの限りとししない。

(イ) 快適な環境の形成機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域
快適な環境の形成機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせる。

(ウ) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域
保健／文化機能／生物多様性保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりをもたせて定める。ただし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有する保護林、レクリエーションの森等については、この限りとしない。

イ 公益的機能別施業森林区域内における施業の方法

① 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、伐期の間隔の拡大とともに伐採面積の縮小・分散を図ることを基本とし、下層植生の維持（育成複層林施業にあっては、下層木の適確な生育）を図りつつ、根系の発達を確保するとともに、立地条件に応じて長伐期施業、択伐による複層林施業、複層林施業（択伐によるものを除く）を推進することを旨とする。

② 土地に関する災害の防止及び、土壌の保全機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業をすべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、それぞれの区域の機能に応じ、森林の構成を維持し、樹種の多様性を増進することを基本として、長伐期施業、択伐による複層林施業、複層林施業（択伐によるものを除く）など、良好な自然環境の保全や快適な利用のための景観の維持・形成を目的とした施業の方法とする。

5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

(1) 林道（林業専用道を含む。以下同じ。）の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道の開設については、森林の整備及び保全の目標の実現を図るため、森林施業の効率的な実施に必要な林道について計画的な整備を促進する。

○基幹路網

単位 延長：km

区分	路線数	延長
基幹路線	135	416
うち林業専用道	—	—

(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的考え方

高性能林業機械を含む機械作業システムの導入を促進するとともに、効率的な森林施業に資するため、林道、林業専用道及び森林作業道が有機的に連結するよう別表に示す路網密度により路網を整備するとともに、作業路については、近年の路網作設のための技術の向上も踏まえて、低コストで壊れにくい作業路の整備を推進することとする。

区 分	作業システム	路網密度	
		基幹路網	
緩傾斜地(0° ～35°)	車両系作業システム	100m/ha以上	35m/ha以上
中傾斜地(15° ～30°)	車両系作業システム	75m/ha以上	25m/ha以上
	架線系作業システム	25m/ha以上	25m/ha以上
急傾斜地(30° ～35°)	車両系作業システム	60m/ha以上	15m/ha以上
	架線系作業システム	15m/ha以上	15m/ha以上
急 峻 地(35° ～)	架線系作業システム	5m/ha以上	5m/ha以上

注1： 「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材を吊り上げて集積するシステム。タワーヤーダー等を活用する。

2： 「車両系作業システムとは、林内にワイヤーロープを架設せず、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステム。フォワーダー等を活用する。

(3) 更新を確保するための林産物の搬出方法を特定する森林の所在及びその方法
該当なし

(4) その他必要な事項
該当なし

6 森林施業の合理化に関する事項

(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

森林の流域管理システムの確立及び国有林野事業における事業の民間実行の徹底を推進する上において、合理的かつ効率的な事業規模、機械装備等を有する経営体質の強い林業事業体の育成、強化が重要となっている。

このため、林業事業体の体質強化、高性能林業機械の開発導入、林業労働者の就労条件の改善、労働安全衛生の確保等に関する一般林政施策の充実とあいまって、国有林野事業としても次の方策により林業事業体の育成、強化を図るとともに、これらを通じ優れた林業労働者の確保に資することとする。

ア 事業の計画的、安定的な発注等により経営の安定化を図る。

イ 事業主への労働安全衛生対策に関する指導、就労条件の改善への配慮等を行うとともに、森林施業の多様化等に対応した実行体制を確保し得るよう施工管理体制の確立に関する指導や技術指導等を行う。

(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針

林業機械化の促進については、森林施業の効率化や労働災害の減少等に資する高性能林業機械の導入が重要であり、これまで国有林・民有林が連携してその普及に努めた結果、着実に広まってきているものの、高性能林業機械の作業性能を最大限に引き出した作業システムへの移行が進展せず、労働生産性の向上、生産コストの縮減に繋がっていない状況が見られる。

このため、民有林関係者と連携を図りつつ、現地検討会等を通じた高性能林業機械を含む機械作業システムの普及・指導、オペレーターを養成するための研修フィールドの提供に取り組むほか、路網の整備、事業規模の確保に配慮した請負事業の発注に努め、林業事業体の高性能林業機械の導入の推進に寄与するよう努めることとする。

(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針

木材の計画的、安定的な販売に努めるとともに、木材の安定的取引関係の確立等による流通・加工コストの低減や供給ロットの拡大を通じ、需要者のニーズに即した製品を供給し得る体制に民有林と連携しながら取り組むものとする。

第4 森林の保全に関する事項

1 森林の土地の保全に関する事項

(1) 土地の形質の変更にあたって留意すべき事項

土地の形質変更にあたっては、林地の保全に十分留意することとし、地形、地質等の条件等に応じて実施地区を選定するとともに、土砂の切り取り、盛土を行う場合には、法勾配の安定を図り、必要に応じて法面保護のための緑化工、土留工等の施設又は排水施設等を設けることとし、その他の土地の形質変更を行う場合には、その態様に応じて土砂の流出、崩壊等の防止に必要な施設を設ける等適切な保全措置を講ずるものとする。

(2) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

森 林 の 所 在		面 積	留意すべき事項	備 考
市 町 村	区 域 (林 班)			
総 数		53,955.47		
盛 岡 市	59～71, 80～86, 205～372, 435～437, 513～516, 522～538, 540～550, 552～555, 601～603	16,176.94	1 保安林等については、指定の目的の達成に必要な施業を行う。 2 立木の伐採にあたっては、山地災害防止機能等に支障を及ぼすことのないよう留意する。 土地の形質変更は極力行わない。やむを得ず行う場合は、必要最小限の規模とし、土砂の流出の防止等の施設を設けるなど林地の保全に十分留意するものとする。	
雫 石 町	604, 606～627, 630, 633～667, 669～694, 696～710, 713～725, 727, 735, 737～784, 786～792, 794, 801～804, (雫)9～11	30,484.58		
岩 手 町	1001～1003, 1005～1016, 1037, 1038	1,693.33		
滝 沢 村	15, 90～93, 143, 157	1,090.48		
紫 波 町	401～409, 411～425, 510, 518～521	3,756.52		
矢 巾 町	427～432	753.62		

注 ()書きは官行造林地で契約者等名称は以下のとおり。

(雫) 雫石町御明神財産区

(3) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法 該当なし

2 保安施設に関する事項

(1) 保安林の整備に関する事項

本森林計画区における森林に関する自然的条件、社会的要請及び保安林の配備状況等を踏まえ、特に公益的機能の発揮が要請される森林については保安林として適切に管理・保

全していくこととする。

また、第3の4で定める公益的機能別施業森林の区域については、その機能を十分に発揮できるよう、必要に応じて保安林の指定施業要件の見直しを行うこととする。

(2) 保安施設地区に関する事項

該当なし

(3) 治山事業に関する事項

豪雨、地震、火山噴火、地滑り、流木等による山地災害を防止し、被害を最小限にとどめ、地域の安全性の向上に資するため、地域の実情を踏まえつつ迅速かつ機動的な治山施設の設置等を行い、災害に強い森林の保全・再生を推進する。

また、ダム上流の重要な水源地や集落の水源地となっている保安林等については、浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林の維持・造成を推進する。

(4) その他必要な事項

保安林の適切な管理を確保するため、保安林台帳の調製、標識の設置、巡視等を適正に行うこととする。

3 森林の保護に関する事項

(1) 森林病虫害等の被害対策の方針

森林病虫害等の被害対策については、保護樹帯の設置、適切な保育の実行等により病虫害等の森林被害に対する抵抗性の高い森林の整備に努めるとともに、日常の管理を通じて適時適切に行うこととする。

特に、松くい虫による被害については、重点的に巡視を行い早期発見に努めるとともに、県と連携して適切な防除対策の推進を図ることとする。

また、ナラ枯れ被害については、先進地域において重点的に巡視を行い早期発見に努めるとともに、適切な防除対策の推進を図ることとする。

(2) 鳥獣による森林被害対策の方針

シカ等による食害や剥被害に対しては、公益的機能への影響を踏まえ、地方公共団体等との連携を図りつつ、地域の実情に応じた被害対策に積極的に取り組むこととする。

(3) 林野火災の予防の方針

山火事等の森林被害を未然に防止し、林野巡視、山火事警防等を適時適切に実施することとする。

(4) その他必要な事項

森林の面積、森林の管理状況等を勘案して林内歩道の整備を図るとともに、森林の保護思想の普及のための標識設置等を行うこととする。

第5 計画量等

1 伐採立木材積

単位 材積：1,000m³

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹
総 数	1,119	1,106	13	155	144	11	964	962	2
前半5カ年の計画量	321	319	2	67	65	2	255	255	0

2 間伐面積

単位 面積：ha

区 分	間伐面積
総 数	30,160
前半5カ年の計画量	7,978

3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位 面積：ha

区 分	人 工 造 林	天 然 更 新
総 数	638	214
前半5カ年の計画量	344	15

4 林道の開設又は拡張に関する計画

単位 延長：m、面積：ha

開設 拡張 別	種類	区 分	位 置 (市町村)	路 線 名	延 長	利用 区域 面積	前半5カ 年計画の 箇所	対図 番号	備考 (林班)	
開設	総 数			1 3 路線	38,240		23,647			
	林 道			1 路線	1,300		1,267			
	林業専用道			1 2 路線	36,940		22,380			
	自動 車道	林道	盛岡市	田代	1,300	24	1,267	①	67外	
		林道計		1 路線	1,300		1,267			
		林業専用道		小乙壁	4,800	173	2,250	②	532	
				里桧沢	3,800	83	500	③	525	
				白井川	2,000	184	2,000	④	80	
				藪川(北の沢)	3,000	169	3,000	⑤	318	
				茶臼	3,300	34	500	⑥	84	
				三助沢	2,500	78				
				林業専用道計	6 路線	19,400		8,250		
		計		7 路線	20,700		9,517			
		林業専用道		雫石町	高森山	4,600	76	3,000	⑦	672
		荒沢			3,800	114	2,000	⑧	742	
		林業専用道計		2 路線	8,400		5,000			
		林業専用道		岩手町	横沢支線	2,500	91	2,500	⑨	1042
	太郎畑沢	2,000	75		2,000	⑩	1316外			
	林業専用道計	2 路線	4,500		4,500					
	林業専用道	紫波町	音水沢	2,340	170	2,331	⑪	521		
外和沢	2,300		26	2,299	⑫	518				
林業専用道計	2 路線		4,640		4,630					

5 保安林整備及び治山事業に関する計画

(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

①保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位 面積：ha

保安林の種類	面積		備考
		前半5カ年の計画	
総数（実面積）	56,356	56,356	
水源かん養のための保安林	47,364	47,364	
災害防備のための保安林	3,682	3,682	
保健・風致の保存等のための保安林	2,501	2,501	

(注) 総数欄は、保安林の種類ごとの重複関係を除く面積を掲上した。

②計画期間内において、保安林の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等

単位 面積：ha

指定 解除 別	種類	森林の所在		面積		指 は を と 理	定 解 必 ず	又 除 要 る 由	備考
		市町村	区域(林班)		前半5カ年の計画面積				
指定	総数			2,812	2,812				
	水源 かん養	計		127	127	水源かん 養のため			
		盛岡市	549	127	127				
		計		1,608	1,608				
		岩手町	1032~1036、1039、 1040、1042、1044~ 1046、1051、1057、 1315~1324、1326、 1409、1410	1,608	1,608				
		計		1,060	1,060				
		紫波町	501~512	1,060	1,060				
		計		17	17				
		滝沢村	92	17	17				

③計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積
該当なし

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等
該当なし

(3) 実施すべき治山事業の数量

単位 地区

森 林 の 所 在 市町村		治山事業施工地区数		主な工種	備考
区 域			前半5カ 年の計画 地区数		
盛岡市	91、92	2	2	溪間工	
雫石町	774、780、783、786、787、788、 789、791	8	8	山腹工 溪間工 本数調整伐	
岩手町	1035、1036、1045、1046、1051	5	5	山腹工 溪間工	
合 計		15	15		

第6 その他必要な事項

保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域(林班)			
水かん	盛岡市	59～71, 80～86, 205～372, 435～437, 513～516, 522～538, 540～550, 552～555, 601～604	16,063.97	別紙1の とおり	砂指 47.59 県特1 151.22 県特2 69.21 県特3 1,687.94
	雫石町	604, 606～627, 630, 633～667, 669～694, 696～710, 713～719, 735, 737～784, 786～791, 794	27,436.82		保健保 1943.19 砂指 96.12 国特保 53.96 国特1 1,017.51 国特2 1,752.77 国特3 6,471.49
	岩手町	1001～1003, 1005～1016	1,477.41		
	滝沢村	90～92	494.44		国特2 22.62
	紫波町	402～409, 411～425, 518～521	3,622.63		
	矢巾町	427～432	740.43		
	小計		49,835.70		
	土流	盛岡市	435, 436		11.77
雫石町		691～693, 707, 720～724, 727, 776～781, 783, 784, 792, 801～804, (雫)9～11	2,754.21	保健 307.78 砂指 12.67 国特保 169.30 国特1 23.13 国特2 897.48 鳥保特 169.30 史跡 16.02	
岩手町		1037, 1038	180.55		
滝沢村		92, 93, 143, 157	593.69	保健 228.63 国特保 91.03 国特2 497.54 鳥保特 91.03 史跡 24.80	
紫波町		401, 422, 424, 425	110.06		
小計			3,650.28		

単位 面積 : ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)	
	市町村	区域(林班)				
土崩	盛岡市	601, 602	3.67			
	雫石町	625, 669, 670, 690, 696, 707, 708, 714, 722, 727, 741	88.94		砂防指	2.97
	小計		92.61			
保健	雫石町	777, 752, 753, 755~760, 762, 771~784, 792	2252.84	別紙1の とおり		
	滝沢村	93	228.63			
	小計		2,481.47			
計			56,060.06			
砂指	盛岡市	219, 220, 222, 254, 256, 260~262, 282~284, 287, 288, 321, 322	47.62	別紙3の とおり	水かん	47.59
	雫石町	618, 635, 696, 697, 699~701, 706~708, 713~715, 749~752, 777, 781, 783, 784	121.74		水かん	96.12
					土流	12.67
					土崩	2.97
					保健	7.61
					国特2	7.61
			国特3	9.68		
			史跡	1.91		
	岩手町	1002, 1003, 1006, 1007	14.9			
	紫波町	510	0.3			
	矢巾町	431, 432	5.82			
計			190.38			
国特保	雫石町	700, 701, 704, 784, 792	223.26	別紙2の とおり	水かん	53.96
					土流	169.3
					保健	169.3
	滝沢村	93	91.03		鳥保特	169.3
					土流	91.03
					保健	90.98
					鳥保特	91.03
					史跡	24.80
	小計		314.29			
国特1	雫石町	758, 762~769, 771, 772, 776, 778~783	1041.11		水かん	1,017.51
					土流	23.13
					保健	476.91

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域 (林班)			
国特2	雫石町	698~701, 704, 705, 709, 710, 718, 757, 759~761, 769~771, 773~784, 792	2666.54	別紙2の とおり	水かん 1,752.77 土流 897.48 保健 178.15 砂指 7.61 史跡 1.91
	滝沢村	91, 93	520.21		水かん 22.62 土流 497.54 保健 137.65
	小計		3,186.75		
国特3	雫石町	756~784	6549.56		水かん 6,471.49 保健 1298.12 砂指 9.68 県史跡 1.43
計			11,091.71		
県特1	盛岡市	60~67	151.22		水かん 151.22
県特2	盛岡市	71, 208, 365~369, 371, 372	70.57		水かん 69.21
県特3	盛岡市	60~71, 365~369, 371, 372	1830.50		水かん 1,687.94
計			2052.29		
鳥保特	雫石町		169.3		別紙3の とおり
	滝沢村		91.03	土流 91.03 保健 90.98 国特保 91.03 史跡 24.80	
計			260.33		
特母樹	雫石町		14.51		
計			14.51		

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域 (林班)			
史跡	雫石町	780,781	16.02	別紙3のとおり	土流 16.02
					保健 16.02
					砂指 1.91
					国特2 16.02
	滝沢村	93	24.80		土流 24.80
					保健 24.80
				国特保 24.80	
				鳥保特 24.80	
	計		40.82		
県史跡	雫石町	757	1.43		国特3 1.43
	計		1.43		
	合計		69,711.53		

注1 種類及び備考欄の重複制限林の略称は、以下のとおり。

水かん＝水源かん養保安林

土流＝土砂流出防備保安林

土崩＝土砂崩壊防備保安林

保健＝保健保安林

砂指＝砂防指定地

国特保＝国立公園特別保護地区

国特1＝国立公園第1種特別地域

国特2＝国立公園第2種特別地域

国特3＝国立公園第3種特別地域

県特1＝県立自然公園第1種特別地域

県特2＝県立自然公園第2種特別地域

県特3＝県立自然公園第3種特別地域

鳥保特＝鳥獣保護区特別保護地区

特母＝特別母樹林

史跡＝史跡名勝天然記念物

県史跡＝県条例に基づく史跡名勝天然記念物

別紙 1 保安林の指定施業要件

事 項	基 準
伐採の方法	<p>1 主伐に係るもの</p> <p>(1) 水源のかん養又は風害、干害若しくは霧害の防備をその指定の目的とする保安林にあつては、原則として、伐採種の指定をしない。</p> <p>(2) 土砂の流出の防備、土砂の崩壊の防備、飛砂の防備、水害、潮害若しくは雪害の防備、魚つき、航行の目標の保存、公衆の保健又は名所若しくは旧跡の風致の保存をその指定の目的とする保安林にあつては原則として、択伐による。</p> <p>(3) なだれ若しくは落石の危険の防止若しくは火災の防備をその指定の目的とする保安林又は保安施設地区内の森林にあつては、原則として伐採を禁止する。</p> <p>(4) 伐採の禁止を受けない森林につき伐採をすることができる立木は、原則として、標準伐期齢以上のものとする。</p> <p>2 間伐に係るもの</p> <p>(1) 主伐に係る伐採の禁止を受けない森林にあつては、伐採をすることができる箇所は、原則として、省令が定めるところにより算出される樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とする。</p> <p>(2) 主伐に係る伐採の禁止を受ける森林にあつては、原則として、伐採を禁止する。</p>
伐採の限度	<p>1 主伐に係るもの</p> <p>(1) 同一の単位とされる保安林等において伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる面積の合計は、原則として、当該同一の単位とされる保安林等のうちこれに係る伐採の方法として択伐が指定されている森林及び主伐に係る伐採の禁止を受けている森林以外のものの面積の合計に相当する数を、省令で定めるところにより、当該指定の目的を達成するため相当と認められる樹種につき当該指定施業要件を定める者が標準伐期齢を基準として定める伐期齢に相当する数で除して得た数に相当する面積をこえないものとする。</p> <p>(2) 地形、気象、土壌等の状況等により特に保安機能の維持又は強化を図る必要がある森林については、伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる1箇所当たりの面積の限度は、省令で定めるところによりその保安機能の維持又は強化を図る必要の程度に応じ当該指定施業要件を定める者が指定する面積とする。</p> <p>(3) 風害又は霧害の防備をその指定の目的とする保安林における皆伐による伐採は、原則として、その保安林のうちその立木の全部又は相当部分がおおむね標準伐期齢以上である部分が幅20メートル以上にわたり帯状に残存することとなるようにするものとする。</p>

事 項	基 準
伐採の限度	<p>(4) 伐採年度ごとに択伐による伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積に相当する数に省令で定めるところにより算出される択伐率を乗じて得た数に相当する材積をこえないものとする。</p> <p>2 間伐に係るもの</p> <p>伐採年度ごとに伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積の10分の3.5を超えず、かつ、その伐採によりその森林に係る第1号(2)イの樹冠疎密度が10分の8を下ったとしても当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね5年後においてその森林の当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実にであると認められる範囲内の材積をこえないものとする。</p>
植 栽	<p>1 方法に係るもの</p> <p>満1年以上の苗を、おおむね、1ヘクタール当たり伐採跡地につき的確な更新を図るため必要なものとして農林水産省令で定める植栽本数以上の割合で均等に分布するように植栽するものとする。</p> <p>2 期間に係るもの</p> <p>伐採が終了した日を含む伐採年度の翌伐採年度の初日から起算して2年以内に植栽するものとする。</p> <p>3 樹種に係るもの</p> <p>保安機能の維持又は強化を図り、かつ、経済的利用に資することができる樹種として指定施業要件を定める者が指定する樹種を植栽するものとする。</p>

別紙2 自然公園における施業の方法

区 分	施 業 の 方 法
特 別 保護地区	森林の施業に関する制限について、環境大臣はそれぞれの地区につき農林水産大臣と協議して定めるものとする。
第1種 特別地域	<ol style="list-style-type: none"> 1 禁伐とする。ただし、風致維持に支障のない場合に限り、単木択伐法を行うことができる。 2 単木択伐法は次の規定により行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定する。 (2) 択伐率は現在蓄積の10%以内とする。
第2種 特別地域	<ol style="list-style-type: none"> 1 択伐法によるものとする。ただし、風致の維持に支障のない限り、皆伐法によることができる。 2 公園計画に基づく車道、歩道、集団施設地区及び単独施設の周辺（造林地、要改良林分、薪炭林を除く。）は、原則として単木択伐法によるものとする。 3 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢以上とする。 4 択伐率は用材林においては、現在蓄積の30%以内とし、薪炭林においては60%以内とする。 5 伐採及び更新に際し、特に風致上必要と認める場合は環境省自然環境局長及び県知事は、伐区、樹種、林型の変更を要望することができる。 6 特に指定した風致樹については、保育及び保護に努めること。 7 皆伐法による場合、その伐区は次のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 1伐区の面積は2ヘクタール以内とする。ただし、疎密度3より多く保残木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合は、伐区面積を増大することができる。 (2) 伐区は、更新後5年以上を経過しなければ連続して設定することはできない。この場合においても、伐区は努めて分散させなければならない。
第3種 特別地域	全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業の制限を受けないものとする。

別紙3 砂防指定地等の施業方法

区 分	施 業 の 方 法
砂防指定地	「砂防法施行条例」（平成11年12月17日岩手県条例第73号）で定めるところによる。
自然環境保全地域 特別地区	「自然環境保全地域の特別地区内における木竹の伐採の方法及びその限度」に関する覚書について（昭和49年10月9日49林野計第405号）による。
県自然環境保全地域 特別地区	「岩手県自然環境保全条例」（昭和48年12月25日岩手県条例第62号）で定めるところによる。
鳥獣保護区 特別保護地区	「鳥獣保護区内の森林施業について」（昭和39年1月17日38林野計第1043号）による。
史跡名勝天然記念物	指定の目的に応じた施業を行う。
特別母樹	「林業種苗法」（昭和45年法律第89号）による。

別表 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

1 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積：ha

市町村	森 林 の 所 在 (林 班)	面 積	施業方法
総 数		61,623.18	
盛岡市	計	16,755.25	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	59～71、80～87、205～372、435～437、513～516、 522～538、540～550、552～555、601～603		
雫石町	計	31,732.83	
	604、606～630、633～667、669～694、696～710、 713～728、731、732、735、737～784、786～792、 794、801～804		
岩手町	計	5,262.60	
	1001～1003、1005～1016、1019～1022、1024～1028、 1032～1040、1042、1044～1046、1048、1051～1055、 1057～1060、1111、1112、1205～1211、1214、1315 ～1324、1326、1409、1410		
紫波町	計	5,077.85	
	401～409、411～426、501～512、518～521		
矢巾町	計	997.84	
	427～434		
滝沢村	計	1,796.81	
	15、42、43、48、90～95、143、156～166		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

2 土地に関する災害の防止機能、土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

① 森林の有する土地に関する災害の防止機能、土壌の保全機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森林の所在（林班）	面積	施業方法
総数		10,611.15	
盛岡市	計	2,266.12	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	219、220、222、223、226、227、228、229、230、 231、232、233、234、235、236、237、238、239、 243、244、246、247、248、249、250、251、252、 253、254、255、256、257、258、259、260、261、 262、282、283、284、285、286、287、288、289、 290、291、292、298、299、300、301、304、305、 306、307、308、309、310、311、315、316、319、 320、321、322、435、436、513、516、601、602		
雫石町	計	5,686.24	
	607、611、614、617、618、625、635、667、669、 670、689、690、691、692、693、694、696、697、 698、699、700、701、706、707、708、714、715、 716、717、720、721、722、723、724、727、740、 741、742、743、744、745、746、747、748、749、 750、751、752、753、754、755、756、757、758、 759、760、761、762、763、764、765、768、769、 770、771、772、773、774、775、776、777、778、 779、780、781、782、783、784、786、787、788、 789、790、792、801、802、803、804		
岩手町	計	213.56	
	1002、1003、1006、1007、1020、1037、1038		
紫波町	計	797.36	
	401、408、409、411、418、419、422、423、424、 510		
矢巾町	計	788.59	
	428、429、430、431、432、433、434		
滝沢村	計	859.28	
	91、92、93、143、157		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

② 快適な環境の形成の機能の維持増進を図る森林
該当なし

③ 保健機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森 林 の 所 在 (林 班)	面 積	施業方法
総 数		13,618.57	
盛岡市	計	3,252.10	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	60、61、62、63、64、65、66、67、80、81、82、84、 85、86、87、208、240、241、242、245、293、294、 295、296、297、298、299、300、301、302、303、 309、310、311、312、313、314、317、318、325、 326、327、328、329、330、331、347、348、354、 361、362、363、364、365、366、367、368、369、 370、371、372、536、537、538、540、555		
雫石町	計	10,251.18	
	604、677、693、694、698、699、700、701、704、 705、709、710、716、718、719、725、726、737、 739、740、742、743、744、745、746、747、748、 750、751、752、753、754、755、756、757、758、 759、760、761、762、763、764、765、766、767、 768、769、770、771、772、773、774、775、776、 777、778、779、780、781、782、786、787、788		
岩手町	計	81.92	
	1019、1020、1055		
紫波町	計	5.45	
	408		
滝沢村	計	27.92	
	90、91		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

(附) 参 考 资 料

1 森林計画区の概況

(1) 市町村別土地面積及び森林面積

単位 面積：ha 比率：%

区 分	区域面積 ①	森 林 面 積			森林比率 ②/①×100
		総数②	国有林	民有林	
総 数	234,466	164,077	61,865	102,212	70
盛 岡 市	88,647	64,923	16,755	48,168	73
雫 石 町	60,901	49,224	31,840	17,384	81
岩 手 町	36,055	27,018	5,397	21,621	75
滝 沢 村	18,232	7,472	1,797	5,675	41
紫 波 町	23,903	13,821	5,078	8,743	58
矢 巾 村	6,728	1,619	998	621	24

資料 区域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成21年)

注 国有林面積は林野庁所管面積(官行造林を含む)で、民有林面積は地域森林計画対象面積

(2) 地況(気候)

観 測 地	気 温 (°C)			年間降水量 (mm)	最深積雪量 (cm)	備 考
	最 高	最 低	年平均			
盛 岡	34.2	-11.8	10.4	1,305	45	
雫 石	32.8	-17.4	9.7	1,573	68	
好 摩	32.8	-16.7	9.7	1,205	-	
藪 川	29.1	-24.2	6.3	1,430	-	
紫 波	33.3	-12.3	10.2	1,286	-	

資料 気象庁アメダス(2000~2009年までの10年平均)

(3) 土地利用の現況

単位 面積：ha

区 分	総 数	森 林	農 地			その他
			総 数	うち田	うち畑	
総 数	234,466	164,077	31,970	18,630	13,333	38,419
盛 岡 市	88,647	64,923	9,090	4,770	4,320	14,634
雫 石 町	60,901	49,224	6,060	4,020	2,040	5,617
岩 手 町	36,055	27,018	4,880	1,490	3,390	4,157
滝 沢 村	18,232	7,472	3,500	1,450	2,050	7,260
紫 波 町	23,903	13,821	5,660	4,390	1,260	4,422
矢 巾 町	6,728	1,619	2,780	2,510	273	2,329

資料 農地は、農林水産省「作物統計面積調査市町村別データ」(平成21年)

(4) 産業別生産額

単位 金額：百万円

区分	総生産	第1次産業				第2次産業	第3次産業
		総額	農業	林業	水産業		
総数	1,145,086	21,339	20,370	880	88	176,625	1,001,124
盛岡市	867,715	6,646	6,360	281	5	125,994	775,997
雫石町	36,257	3,420	3,129	213	78	7,993	26,554
岩手町	26,116	3,619	3,383	233	3	7,560	19,310
滝沢村	89,433	1,951	1,917	32	2	15,961	75,739
紫波町	57,360	3,761	3,727	34	0	14,501	41,803
矢巾町	65,204	1,943	1,855	87	0	4,617	61,720

資料 岩手県調査統計課「岩手県統計年鑑/市町村民所得推計」（平成19年度）

(5) 産業別就業者数

単位 人数：人

区分	総数	第1次産業				第2次産業	第3次産業
		総数	農業	林業	水産業		
総数	224,311	17,153	16,762	362	29	37,796	168,149
盛岡市	145,888	6,161	5,987	153	21	20,753	117,969
雫石町	10,419	2,182	2,097	83	2	2,084	6,128
岩手町	8,550	2,557	2,482	75	0	2,334	3,653
滝沢村	27,404	1,551	1,515	33	3	6,263	19,432
紫波町	17,828	3,146	3,131	13	2	3,797	10,872
矢巾村	14,222	1,556	1,550	5	1	2,565	10,095

資料 総務省統計局「平成17年国勢調査報告」

注 総数には「不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない。

2 森林の現況

(1) 齢級別森林資源表

単位：面積：ha，材積：立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量：1,000m³

区分	総数			1 齢級			2 齢級			3 齢級			4 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	61,864.82	8,934	144	165.02			157.36			338.40			520.05		
総数	56,932.16	8,934	144	165.02			157.36			338.40			520.05		
針	29,485.94	4,037	90	134.60			86.00			286.29			427.15		
広	27,446.22	4,897	54	30.42			71.36			52.11			92.90		
総数	25,102.19	4,364	100	142.95			81.59			230.24			367.63		
針	24,748.45	3,332	80	134.60			60.69			203.12			309.91		
広	353.74	1,032	20	8.35			20.90			27.12			57.72		
総数	23,997.62	4,182	98	142.95			81.59			227.02			367.63		
針	23,655.35	3,223	79	134.60			60.69			199.90			309.91		
広	342.27	959	19	8.35			20.90			27.12			57.72		
	(3.22)														
育 成	1,104.57	182	2							3.22					
育 成	1,093.10	108	1							3.22					
針	11.47	74	1												
広	31,829.97	4,570	44	22.07			75.77			108.16			152.42		
総数	4,737.49	705	9				25.31			83.17			117.24		
針	27,092.48	3,865	34	22.07			50.46			24.99			35.18		
広	765.68	105	3				25.31			83.17			117.24		
総数	753.07	102	3				25.31			83.17			117.24		
針	12.61	3													
広	671.67	78	2												
総数	39.05	6													
針	632.62	72	2												
広	30,392.62	4,387	39	22.07			50.46			24.99			35.18		
総数	3,945.37	598	6												
針	26,447.25	3,790	33	22.07			50.46			24.99			35.18		
広															
竹林															
無立木地	4,932.66														

(注) 1. 人工林及び天然林で点生木のみを林分については、本表の集計には含まれていない。

2. 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3. () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積：ha，材積：立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量：1,000m³

区分	5 齢級			6 齢級			7 齢級			8 齢級			9 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量									
総数	1,313.80	130	8	2,849.26	351	16	3,128.26	477	16	5,030.24	917	24	5,493.69	1,029	20
	1,313.80	130	8	2,849.26	351	16	3,128.26	477	16	5,030.24	917	24	5,493.69	1,029	20
総数	1,157.02	99	6	2,735.91	279	13	3,026.72	377	13	4,769.63	704	19	5,146.83	775	15
	156.78	30	2	113.35	72	3	101.54	100	3	260.61	213	5	346.86	255	5
総数	1,155.09	117	7	2,761.91	344	16	3,008.25	465	15	4,527.60	857	22	5,085.52	994	19
	1,047.51	88	6	2,713.59	276	13	2,982.86	371	13	4,515.59	664	18	5,077.22	763	15
育単層成林	107.58	28	1	48.32	68	3	25.39	94	3	12.01	193	4	8.30	231	4
	1,155.09	117	7	2,761.91	344	16	2,983.52	461	15	4,413.53	837	22	4,944.18	970	18
育複層成林	1,047.51	88	6	2,713.59	276	13	2,958.13	369	12	4,401.52	652	18	4,941.45	747	15
	107.58	28	1	48.32	68	3	25.39	92	3	12.01	185	4	2.73	223	4
立木地							24.73	4		114.07	19		141.34	24	
							24.73	2		114.07	12		135.77	16	
天然林								2			8		5.57	8	
							120.01	12		502.64	60	2	408.17	35	1
育単層成林	158.71	13	1	87.35	6		43.86	6		254.04	40	1	69.61	11	
	109.51	11	1	22.32	3		76.15	6		248.60	20	1	338.56	24	1
育複層成林	49.20	2		65.03	4		43.86	6		248.09	40	1	53.22	9	
	103.71	10	1	22.32	3		43.86	6		248.09	40	1	53.06	9	
天然林	103.71	10	1	22.32	3								0.16		
							24.70	2		58.98	4		47.63	5	
無立木地										2.98			1.39		
							24.70	2		56.00	4		46.24	4	
竹林				65.03	4		51.45	4		195.57	16		307.32	21	
										2.97			15.16	2	
無立木地	49.20	2		65.03	4		51.45	4		192.60	16		292.16	19	

(注) 1. 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。
 2. 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。
 3. () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積：ha，材積：立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量：1,000m³

区分	I 0 齢級			I 1 齢級			I 2 齢級			I 3 齢級			I 4 齢級		
	面積	材積	成長量												
総数	3,674.39	670	10	2,551.52	491	7	1,589.70	281	4	1,411.95	233	4	1,206.96	201	3
総数	3,674.39	670	10	2,551.52	491	7	1,589.70	281	4	1,411.95	233	4	1,206.96	201	3
針	3,285.29	487	7	2,058.35	341	4	905.31	141	1	339.21	54	1	437.52	68	1
広	389.10	183	3	493.17	150	3	684.39	139	3	1,072.74	179	4	769.44	132	2
総数	3,278.57	634	9	1,992.45	427	5	756.90	164	2	160.00	34		244.70	52	
針	3,255.91	482	7	1,986.33	331	4	756.90	119	1	160.00	22		244.24	35	
広	22.66	152	2	6.12	96	1		46			12		0.46	17	
育単層成林	3,153.56	610	9	1,950.60	420	5	756.33	164	2	132.44	30		194.66	44	
育成林	3,131.47	470	7	1,949.81	326	4	756.33	119	1	132.44	20		194.20	31	
育成林	22.09	140	2	0.79	94	1		46			11		0.46	14	
育成林													(3.22)		
育成林	125.01	24		41.85	7		0.57			27.56	4		50.04	7	
育成林	124.44	13		36.52	5		0.57			27.56	2		50.04	4	
育成林	0.57	12		5.33	2						2			3	
育成林	395.82	36	1	559.07	65	2	832.80	116	3	1,251.95	199	4	962.26	149	3
育成林	29.38	5		72.02	11		148.41	22		179.21	32		193.28	33	
育成林	366.44	31	1	487.05	54	2	684.39	94	2	1,072.74	166	4	768.98	115	2
育成林	1.20			2.42			11.83	3		9.00	2		13.04	2	
育成林	1.20			2.30			10.42	2		6.03	1		8.96	2	
育成林				0.12			1.41			2.97	1		4.08	1	
育成林	35.43	2		83.18	10		30.65	5		41.28	4		81.95	10	
育成林	0.70			5.57	1		0.85			1.40			9.54	1	
育成林	34.73	2		77.61	9		29.80	4		39.88	3		72.41	9	
天然林	359.19	33	1	473.47	55	1	790.32	109	3	1,201.67	193	4	867.27	136	2
天然林	27.48	5		64.15	9		137.14	20		171.78	31		174.78	30	
天然林	331.71	29	1	409.32	46	1	653.18	89	2	1,029.89	162	4	692.49	106	2
無立木地															

(注) 1. 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。
 2. 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。
 3. () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積：ha，材積：立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量：1,000m³

区分	I 5 齢級			I 6 齢級			I 7 齢級			I 8 齢級			I 9 齢級		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	総数	1,414.42	249	3	949.61	177	2	1,066.94	190	2	1,178.83	204	2	1,170.60	199
	針	1,414.42	249	3	949.61	177	2	1,066.94	190	2	1,178.83	204	2	1,170.60	199
総数	針	778.46	99	1	399.60	59	2	223.16	39	2	257.56	43	2	262.32	44
	広	635.96	150	2	550.01	117	2	843.78	150	2	921.27	161	2	908.28	155
総数	針	589.52	105	1	270.10	51	1	81.06	15	1	81.47	15	1	121.85	25
	広	587.50	66	1	270.07	35	1	81.06	9	1	81.47	10	1	120.48	16
育単層成林	針	2.02	38	1	0.03	17	1	19.11	4	1	30.66	8	1	47.96	12
	広	380.48	73	1	165.06	33	1	19.11	4	1	30.66	8	1	47.96	12
育複層成林	針	378.46	48	1	165.03	24	1	19.11	3	1	30.66	5	1	46.59	8
	広	2.02	25	1	0.03	9	1	19.11	3	1	30.66	5	1	46.59	8
立木地	総数	209.04	32	1	105.04	18	1	61.95	11	1	50.81	8	1	73.89	13
	針	209.04	18	1	105.04	11	1	61.95	6	1	50.81	5	1	73.89	8
天然林	針	824.90	144	2	679.51	125	2	985.88	175	2	1,097.36	189	2	1,048.75	174
	広	190.96	32	1	129.53	25	1	142.10	30	1	176.09	34	1	141.84	28
育単層成林	針	633.94	112	2	549.98	100	2	843.78	145	2	921.27	155	2	906.91	145
	広	1.12	1	1	11.83	5	1	15.23	7	1	1.22	1	1	1.80	2
育複層成林	針	0.57	1	1	9.60	5	1	14.47	7	1	0.91	1	1	1.80	2
	広	0.55	1	1	2.23	1	1	0.76	1	1	0.31	1	1	1.80	2
天 然 生	針	48.44	5	1	4.59	1	1	33.81	4	1	37.06	5	1	5.51	1
	広	6.86	1	1	1.30	1	1	3.08	1	1	1.61	1	1	0.16	1
無立木地	針	41.58	5	1	3.29	1	1	30.73	4	1	35.45	5	1	5.35	1
	広	775.34	138	2	663.09	119	2	936.84	163	2	1,059.08	182	2	1,041.44	171
竹 林	針	183.53	31	1	118.63	20	1	124.55	23	1	173.57	32	1	139.88	27
	広	591.81	107	2	544.46	99	2	812.29	141	2	885.51	150	2	901.56	145

(注) 1. 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。
 2. 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。
 3. () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位：面積：ha, 材積：立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量：1,000m³

区分	20 齢級			21 齢級以上		
	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
総数	総数	1,594.37	260	2	20,126.79	2,831
	針	1,594.37	260	2	20,126.79	2,831
	広	326.45	64	1	2,442.56	325
人工林	総数	1,267.92	195	2	17,684.23	2,505
	針	83.35	19		81.44	14
	広	80.19	12		79.21	9
育 成 林	総数	3.16	7		2.23	5
	針	56.87	14		32.47	7
	広	53.71	9		30.24	5
育 成 林	総数	3.16	5		2.23	3
	針	26.48	5		48.97	7
	広	26.48	3		48.97	4
天然林	総数	1,511.02	241	2	20,045.35	2,817
	針	246.26	52	1	2,363.35	317
	広	1,264.76	189	2	17,682.00	2,500
無立木地	総数		1		0.07	1
	針		1		0.05	1
	広				0.02	
竹 林	総数	45.20	6		93.26	14
	針				3.61	1
	広	45.20	6		89.65	13
無立木地	総数	1,465.82	234	2	19,952.02	2,802
	針	246.26	52	1	2,359.69	316
	広	1,219.56	183	1	17,592.33	2,487

(注) 1. 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。
 2. 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。
 3. () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

(4) 制限林の種類別面積

単位 面積：ha

区分	市町村					合計
	盛岡市	磐石町	岩手町	滝沢村	紫波町	
水源かん養保安林	16,063.97	27,436.82	1,477.41	494.44	3,622.63	740.43
土砂流出防備保安林	11.77	2,754.21	180.55	593.69	110.06	
土砂崩壊防備保安林	3.67	88.94				
飛砂防備保安林						
防風保安林						
水害防備保安林						
潮害防備保安林						
干害防備保安林						
防雪保安林						
防霧保安林						
なだれ防止保安林						
落石防止保安林						
防火保安林						
魚つき保安林						
航行目標保安林		1.87		(228.63)		
保健保安林		(2,250.97)				
風致保安林		(2,250.97)	1,657.96	(228.63)	3,732.69	740.43
計	16,079.41	30,281.84	1,657.96	1,088.13	3,732.69	740.43
保安施設地区						
砂防指定地	(44.12)	3.50	14.90		0.30	5.82
特別保護地区		(109.74)				
第一種特別地域		(223.26)		(91.03)		
第二種特別地域		(1,040.64)				
第三種特別地域		(2,652.12)		(520.16)	0.05	
地種区分未定地域		(6,476.96)				
計		(10,392.98)		(611.19)	0.05	
特別保護地区						
第一種特別地域						
第二種特別地域						
第三種特別地域						
地種区分未定地域						
計						
第一種特別地域	(151.22)					
第二種特別地域	(69.21)	1.36				
第三種特別地域	(1,687.94)	142.56				
地種区分未定地域						
計	(1,908.37)	143.92				
原生自然環境保全地域						
自然環境保全地域特別地区						
都道府県自然環境保全地域特別地区						
鳥獣保護区特別保護地区		(169.30)		(91.03)		
緑地保全地区						
風致地区						
特別母樹林						
史跡名勝天然記念物		(16.02)		(24.80)		
種の保存法による管理地区						
その他	(1,952.49)	16,226.83	1,672.86	(955.65)	1,088.18	746.25
合計	(1,952.49)	16,226.83	1,672.86	(955.65)	1,088.18	746.25

単位 面積：ha

区分		市町村						合計
保安林	水源かん養保安林						49,835.70	
	土砂流出防護保安林						3,650.28	
	土砂崩壊防護保安林						92.61	
	飛砂防護保安林							
	防風保安林							
	水害防護保安林							
	潮害防護保安林							
	干害防護保安林							
	防雪保安林							
	防霧保安林							
	なたれ防止保安林							
	落石防止保安林							
	防火保安林							
	魚つき保安林							
	航行目標保安林						1.87	
保健保安林	(2,479.60)							
風致保安林	(2,479.60)					53,580.46		
計								
保安施設地区	(153.86)					36.52		
砂防指定地	(314.29)							
特別保護地区								
第一種特別地域	(1,040.64)					0.47		
第二種特別地域	(3,172.28)					14.47		
第三種特別地域	(6,476.96)					72.60		
地種区分未定地域								
計	(11,004.17)					87.54		
特別保護地区								
第一種特別地域								
第二種特別地域								
第三種特別地域								
地種区分未定地域								
計								
第一種特別地域	(151.22)							
第二種特別地域	(69.21)					1.36		
第三種特別地域	(1,687.94)					142.56		
地種区分未定地域								
計	(1,908.37)					143.92		
原生自然環境保全地域								
自然環境保全地域特別地区								
都道府県自然環境保全地域特別地区								
鳥獣保護区特別保護地区	(260.33)							
緑地保全地区								
風致地区								
特別母樹林						14.51		
史跡名勝天然記念物	(40.82)							
種の保存法による管理地区								
その他	(1.43)							
合計	(15,848.58)					53,862.95		

(5) 樹種別材積表

単位 材積：1,000m³

樹種 林種	スギ	ヒバ	カラマツ	アカマツ	その他 針葉樹	ブナ	ミズナラ	その他 広葉樹
	総数	1,197	142	1,526	937	235	1,605	278
人工林	1,188	2	1,514	609	20	1	14	1,018
天然林	10	140	12	328	215	1,605	264	1,996

注 四捨五入により総数と内訳は必ずしも一致しない。

(6) 荒廃地の面積

単位 面積：ha

区分	荒廃地
総数	10.34
盛岡市	8.16
雫石町	0.60
岩手町	1.13
滝沢村	-
紫波町	0.45
矢巾町	-

(7) 森林の被害

単位 面積：ha

区分	風水害				病虫害				雪害				獣類害			
	18	19	20	21	17	18	19	20	17	18	19	20	17	18	19	20
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-
盛岡市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-
雫石町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
紫波町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
矢巾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滝沢村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料 「東北森林管理局事業統計書」

注 「-」は被害なし、「0」は被害が1ha未満

3 林業の動向

(1) 森林組合及び生産森林組合の現況

ア 構成

単位 員数：人 金額：千円 面積：ha

市町村別	組合名	組合員数	専従 職員数	出資金 総額	組合員所有 (又は組合経営) 森林面積	備考
森林組合	総数	3,351	31	348,354	78,044	
	盛岡市	盛岡市	599	23	82,794	14,343
	滝沢村					
	盛岡市	岩手中央	2,752	8	265,560	63,701
	雫石町					
	岩手町					
	紫波町					
	矢巾町					
生産森林組合	総数	333	0	62,618	714	
	盛岡市	梁川	44	0	10,140	387
		加賀野	16	0	15,178	202
	紫波町	志和	273	0	37,300	125

資料 平成21年度森林組合要覧（平成20年度実績）

注 組合員数については、正組合員と準組合員との合計数。

イ 事業内容及び活動状況等

単位：千円

森林 組合名	指導 部門	販売 部門	購買 部門	利用 部門	備考
総数	1,098	143,320	28,538	101,346	
盛岡市森林組合	1,098	27,210	7,944	63,522	
岩手中央森林組合	-	116,110	20,594	37,824	

資料 平成21年度森林組合要覧（平成20年度実績）

(2) 林業事業体等の現況

単位：事業体数

区 分	造林業	素 材 生 産 業	木材卸売業	木材・木製品 製造業
総 数	24	27	2	18
盛 岡 市	15	8	-	6
雫 石 町	4	3	-	2
岩 手 町	5	8	-	3
滝 沢 村	-	3	-	2
紫 波 町	-	5	-	3
矢 巾 町	-	-	2	2

資料 造林業、素材生産業は「2000年世界農林業センサス」

木材・木製品製造業は平成20年工業統計調査報告書（従業者4名以上の事業所）

(3) 林業労働力の概況

単位：人、%

区 分	就業者数（15歳以上）			備 考
	総 数	うち林業	割 合	
総 数	224,311	362	0.16	
盛 岡 市	145,888	153	0.10	
雫 石 町	10,419	83	0.80	
岩 手 町	8,550	75	0.88	
滝 沢 村	27,404	33	0.12	
紫 波 町	17,828	13	0.07	
矢 巾 町	14,222	5	0.04	

資料 総務省統計局「平成17年国勢調査報告」

注 総数には「不詳」を含む。

(4) 林業機械化の概況（高性能林業機械）

単位：台

機械種名	総数	備考
フェラーバンチャ	-	立木を伐倒する自走式機械
スキッド	8	けん引式集材専用トラクタ（一人作業が可能なもの）
プロセッサ	8	枝払・玉切りする自走式機械
ハーベスタ	8	伐倒・枝払い・玉切り機械
フォワード	6	積載式集材専用トラクタ（一人作業が可能なもの）
タワーヤード	1	元柱を具備した自走式集材機
スイングヤード	1	簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備

資料 林業機械保有状況調査

4 前期計画の実行状況

(1) 伐採立木材積

単位 材積：1,000m³ 実行歩合：%

区 分	伐 採 立 木 材 積								
	計 画			実 行			実 行 歩 合		
	主伐	間伐	総数	主伐	間伐	総数	主伐	間伐	総数
総 数	101	242	343	113	152	265	112	63	77
針 葉 樹	98	235	333	98	143	241	100	61	72
広 葉 樹	3	7	10	15	9	24	500	129	240

(2) 人工造林・天然更新別面積

単位 面積：ha 実行歩合：%

総 数			人工造林			天然更新		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
353	143	41	312	98	31	41	45	110

(3) 林道の開設又は拡張の数量

単位 延長：km 実行歩合：%

	開 設 延 長		
	計 画	実 行	実行歩合
総 数	42.9	11.6	27

(4) 保安施設の数量

ア 保安林の指定又は解除の面積

単位 面積：ha 実行歩合：%

種 類	指 定			解 除		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
総 数	-	2,078	-	-	0	-
水源かん養	-	2,078	-	-	0	-
災害防備	-	-	-	-	-	-
保健、風致の保存等	-	-	-	-	-	-

イ 保安施設地区の指定

該当なし

ウ 保安施設事業

単位 地区

	面 積	
	計 画	実 行
総 数	28	41

注 計画は10ヵ年分

5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）

(1) 森林より森林以外への異動

単位 面積：ha

農用地	ゴルフ場等 レジャー施設 用地	住宅，別荘，工 場等建物敷地及 びその附帯地	採石採土地	その他	合計
-	0.06	-	-	21.48	21.54

(2) 森林以外より森林への異動

単位 面積：ha

原野	農用地	その他	合計
-	-	2.38	2.38

6 森林資源の推移

(1) 分期別伐採立木材積等

単位 材積：1,000m³ 面積：ha 延長：km

分期		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
伐採立 木材積	総数	総数	321	798	690	712	700	685	645	639
		針葉樹	319	787	677	697	684	668	627	619
		広葉樹	2	11	13	15	17	18	18	16
	主伐	総数	67	88	87	121	149	190	185	164
		針葉樹	65	79	78	111	139	180	175	154
		広葉樹	2	9	10	10	10	10	10	10
	間伐	総数	255	709	603	591	551	495	460	474
		針葉樹	255	708	599	586	544	487	452	465
		広葉樹	0	2	4	6	7	8	8	9
造林面積	総数	359	493	679	741	870	1,007	1,115	1,161	
	人工造林	344	294	310	355	448	552	628	653	
	天然更新	15	199	369	386	423	456	487	508	
林道開設延長		23.6	14.4							

(2) 分期別期首資源表

単位 面積：ha、材積：1,000m³

区 分		面 積													材積
		総 数	1・2 齢 級	3・4 齢 級	5・6 齢 級	7・8 齢 級	9・10 齢 級	11・12 齢 級	13・14 齢 級	15・16 齢 級	17・18 齢 級	19・20 齢 級	21 齢級以上		
I 分期	総 数	56,932	323	877	4,220	8,208	9,186	4,125	2,600	2,305	2,231	2,745	20,112	8,897	
	人工林	総 数	25,060	225	597	3,954	7,565	8,375	2,736	390	805	151	189	74	4,337
		育成単層林	23,967	225	594	3,954	7,427	8,110	2,694	310	501	39	89	25	4,157
		育成複層林	1,093	0	3	0	138	265	42	80	304	112	100	49	180
	天然林	総 数	31,872	98	280	266	642	811	1,390	2,210	1,500	2,079	2,556	20,038	4,560
		育成単層林	796	25	220	141	303	64	1	10	13	16	2	0	90
		育成複層林	683	0	0	0	83	84	114	123	53	71	51	105	77
天然生林		30,393	73	60	125	256	663	1,276	2,077	1,434	1,992	2,503	19,933	4,393	
II 分期	総 数	56,978	524	506	1,871	6,029	10,527	5,977	2,969	2,550	1,999	2,333	21,692	8,547	
	人工林	総 数	25,113	487	312	1,541	5,803	9,613	5,024	893	768	336	191	146	3,841
		育成単層林	24,020	487	309	1,541	5,779	9,358	4,857	865	516	170	67	70	3,706
		育成複層林	1,093	0	3	0	25	254	167	27	252	166	124	76	135
	天然林	総 数	31,865	37	194	331	226	914	953	2,077	1,782	1,663	2,142	21,546	4,706
		育成単層林	796	0	118	236	82	317	1	10	2	27	3	0	125
		育成複層林	683	0	0	0	24	107	119	72	130	39	42	150	92
天然生林		30,386	37	76	95	120	491	833	1,995	1,649	1,597	2,096	21,396	4,489	
III 分期	総 数	56,747	785	323	877	4,214	8,103	8,811	3,863	2,547	2,280	2,252	22,694	9,022	
	人工林	総 数	24,961	637	225	597	3,954	7,476	8,033	2,500	369	702	193	276	4,144
		育成単層林	23,861	628	225	594	3,954	7,368	7,760	2,435	291	460	39	107	4,004
		育成複層林	1,100	10	0	3	0	108	273	65	78	241	154	169	140
	天然林	総 数	31,786	147	98	280	260	627	777	1,363	2,177	1,579	2,059	22,418	4,878
		育成単層林	859	68	25	220	141	303	61	1	10	12	16	2	142
		育成複層林	702	15	0	0	0	83	84	114	123	59	71	154	100
天然生林		30,226	64	73	60	119	241	633	1,249	2,045	1,508	1,973	22,262	4,636	
IV 分期	総 数	56,701	935	524	506	1,864	6,004	10,112	5,592	2,855	2,715	1,957	23,636	9,372	
	人工林	総 数	24,891	602	487	312	1,541	5,792	9,253	4,686	851	717	334	317	4,419
		育成単層林	23,776	572	487	309	1,541	5,767	8,999	4,519	824	466	168	125	4,276
		育成複層林	1,115	30	0	3	0	25	254	167	27	252	166	192	143
	天然林	総 数	31,810	334	37	194	324	212	859	906	2,004	1,998	1,623	23,319	4,953
		育成単層林	958	188	0	118	236	82	295	1	8	2	24	3	155
		育成複層林	738	39	0	0	0	24	107	119	72	150	39	189	110
天然生林		30,114	107	37	76	88	107	457	786	1,924	1,846	1,560	23,127	4,688	
V 分期	総 数	56,518	1,080	785	323	871	4,165	7,917	8,265	3,587	2,784	2,287	24,455	9,678	
	人工林	総 数	24,695	661	637	225	597	3,917	7,339	7,541	2,296	350	753	380	4,627
		育成単層林	23,570	613	628	225	594	3,917	7,202	7,276	2,254	273	455	135	4,482
		育成複層林	1,125	48	10	0	3	0	138	265	42	77	298	245	145
	天然林	総 数	31,822	419	147	98	274	248	577	723	1,291	2,434	1,534	24,076	5,051
		育成単層林	1,090	273	68	25	220	141	271	55	1	8	11	16	168
		育成複層林	751	32	15	0	0	0	83	82	111	149	58	220	119
天然生林		29,982	114	64	73	54	107	223	586	1,179	2,277	1,465	23,840	4,763	
VI 分期	総 数	56,335	1,269	935	524	500	1,809	5,852	9,568	5,122	2,981	2,619	25,156	9,866	
	人工林	総 数	24,476	798	602	487	312	1,494	5,658	8,784	4,280	754	694	613	4,771
		育成単層林	23,337	735	572	487	309	1,494	5,635	8,532	4,114	731	450	280	4,624
		育成複層林	1,139	63	30	0	3	0	24	253	166	23	244	334	147
	天然林	総 数	31,859	471	334	37	187	315	194	784	842	2,227	1,925	24,542	5,095
		育成単層林	1,250	336	188	0	118	236	75	262	1	7	2	24	183
		育成複層林	765	25	39	0	0	0	24	104	112	95	144	223	126
天然生林		29,843	111	107	37	69	79	95	418	729	2,125	1,779	24,295	4,786	
VII 分期	総 数	56,112	1,535	1,080	785	314	844	3,956	7,580	7,645	3,453	2,652	26,269	9,973	
	人工林	総 数	24,205	994	661	637	225	576	3,730	7,062	6,984	1,925	336	1,074	4,848
		育成単層林	23,048	921	613	628	225	573	3,730	6,927	6,722	1,883	263	565	4,699
		育成複層林	1,156	73	48	10	0	3	0	135	262	42	74	509	149
	天然林	総 数	31,908	541	419	147	90	267	226	518	660	1,529	2,316	25,195	5,125
		育成単層林	1,424	391	273	68	25	220	129	237	49	1	7	24	198
		育成複層林	786	43	32	15	0	0	0	80	78	128	141	270	131
天然生林		29,698	108	114	64	65	47	97	201	534	1,400	2,169	24,900	4,796	
VIII 分期	総 数	55,880	1,779	1,269	935	520	472	1,650	5,603	8,933	4,644	2,807	27,268	10,015	
	人工林	総 数	23,898	1,172	798	602	487	294	1,374	5,430	8,235	3,540	735	1,231	4,889
		育成単層林	22,729	1,095	735	572	487	290	1,374	5,408	7,986	3,376	715	691	4,739
		育成複層林	1,169	76	63	30	0	3	0	22	249	165	20	541	150
	天然林	総 数	31,982	607	471	334	33	178	276	173	697	1,104	2,073	26,037	5,126
		育成単層林	1,605	439	336	188	0	118	204	66	224	1	6	23	213
		育成複層林	818	64	25	39	0	0	0	23	98	127	88	355	135
天然生林		29,559	104	111	107	33	60	71	84	375	976	1,979	25,659	4,778	
IX 分期	総 数	55,737	1,928	1,535	1,080	779	295	734	3,718	7,112	6,927	3,294	28,335	10,124	
	人工林	総 数	23,685	1,269	994	661	637	214	512	3,526	6,665	5,998	1,893	1,316	4,923
		育成単層林	22,507	1,198	921	613	628	214	509	3,526	6,533	5,738	1,851	776	4,770
		育成複層林	1,178	71	73	48	10	0	3	0	131	260	42	540	153
	天然林	総 数	32,052	659	541	419	142	81	222	192	447	929	1,400	27,019	5,201
		育成単層林	1,777	469	391	273	68	25	180	105	195	43	1	26	226
		育成複層林	863	89	43	32	15	0	0	0	73	97	114	399	138
天然生林		29,413	100	108	114	59	56	41	87	179	790	1,286	26,593	4,838	

注 単位未満を四捨五入しているため、各数値の積み上げと総数は必ずしも一致しない。

7 その他

(1) 国有林の地域別の森林計画の沿革

樹立時期	区分	計画期間	計画期間	備考
平成3年12月	一斉樹立	自 平成4年4月1日 至 平成12年3月31日	8年	
平成6年12月	經常樹立	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年	
平成9年12月	一斉変更	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年	
平成10年12月	一斉変更	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年	
平成12年12月	經常樹立	自 平成13年4月1日 至 平成23年3月31日	10年	
平成13年12月	一斉変更	自 平成13年4月1日 至 平成23年3月31日	10年	
平成15年12月	一斉変更	自 平成13年4月1日 至 平成23年3月31日	10年	
平成17年12月	經常樹立	自 平成18年4月1日 至 平成28年3月31日	10年	
平成22年12月	經常樹立	自 平成23年4月1日 至 平成33年3月31日	10年	
平成23年12月	一斉変更	自 平成23年4月1日 至 平成33年3月31日	10年	

(2) 担当者の役職及び氏名並びに樹立に従事した期間

職名	氏名	樹立に従事した期間
計画課長	飯島 康夫	平成23年4月～12月
流域管理指導官	小森 哲也	平成23年5月～12月
自然遺産保全調整官	新屋敷 哲也	平成23年4月～12月
計画課長補佐	加藤 重義	平成23年4月～12月
森林施業調整官	相馬 勝則	平成23年4月～12月
企画官	加賀 誠	平成23年4月～12月
企画係長	工藤 信彦	平成23年4月～12月
経営計画第一係長	見市 貴司	平成23年4月～7月
経営計画第一係	安藤 菜穂	平成23年4月～5月
経営計画第二係長	剣持 直樹	平成23年4月～12月
経営計画第三係長	鈴木 春美	平成23年4月～5月
経営計画第三係長	中村 誠	平成23年5月～12月
経営計画第四係長	松浦 博文	平成23年4月～5月
経営計画第四係長	田畑 良輝	平成23年5月～12月
経営計画第五係長	香川 直樹	平成23年4月～12月
経営計画第六係長	太田 正孝	平成23年4月～12月
計画課付	高橋 茂	平成23年5月～12月
計画課付	高橋 良次	平成23年8月～12月